

ウィークリー・アウトルック

自民党総裁選の情勢!?

【今週のポイント】

- ・高市氏勝利なら「円安」、小泉氏なら「円高」のステレオタイプは実現するか
- ・リクスバンク(スウェーデン中銀)は追加利下げの可能性を示すか
- ・メキシコ中銀は先行きの金融政策についてどのようなヒントを示すか

先週、主要中央銀行の政策会合を通過。大きなサプライズはありませんでした。ただ、米 FOMC で大幅利下げを主張したのがミラン(マイラン)理事 1 人だったことや、日銀の金融政策決定会合で 2 人の審議委員が 0.25%利上げを主張したことなど、ディテールには注目すべきものがありました。

今週は、米国の 8 月 PCE(デフレーター)を除けば、目立ったイベントはありません。ただし、FOMC を通過しても積極的な利下げを織り込む市場の予想がどう変化するか。また、自民党総裁選がどういった展開となるのか。それらが相場材料となるかもしれません。

自民党総裁選は、高市氏と小泉氏の一騎打ちの様相です。リフレ派の高市氏が選ばれれば「円安・株高」、財務省と近い小泉氏なら「円高・株安」との見方が強いようです。ただ、そうしたステレオタイプの観測通りに事態が進展するかどうかは予断を許さないところでしょう。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
9月22日		【日】自民党総裁選告示			
9月23日		【日】祝日(秋分の日)			
		国連総会開幕(29日まで)			
	16:30	【スウェーデン】リクスバンク政策金利	2.00%	2.00%	2.00%
	16:30	【独】製造業PMI速報値(9月)	49.5	50.0	49.8
	17:00	【ユーロ圏】製造業PMI速報値(9月)	50.5	50.8	50.7
	22:45	【米】S&Pグローバル製造業PMI速報値(9月)	52.0	51.9	53.0
		【米】S&Pグローバルサービス業PMI速報値(9月)	54.0	53.9	54.5
9月24日		【南アフリカ】祝日(伝統文化継承の日)			
	10:30	【豪】CPI 前年比(8月)	2.9%	2.9%	2.8%
	18:00	【独】IFO企業景況感指数(9月)	89.0	89.4	89.0
9月25日	28:00	【メキシコ】BOM政策金利	7.50%	7.50%	7.75%
9月26日	21:30	【米】PCEデフレーター 前年比(8月)	2.7%	2.7%	2.6%
		【米】PCEコアデフレーター 前年比(8月)	3.0%	2.9%	2.9%

市場予想はBloomberg、9月22日9:00現在。発表日時は日本時間。

22 日の総裁選告示、同日午後の候補者による演説会、翌 23 日の共同記者会見などを経て、10 月 4 日の総裁選の帰趨が大きく変わる可能性もあります。また、誰が自民党総裁になるかはもちろんですが、どの政党と連携して、どのような政策を打ち出すかも重要です。10 月 4 日以降も不透明感は簡単には払しょくされないかもしれません。〈西田〉

先週(9/15-)は NZドルが軟調に推移し、対豪ドルで 22 年 10 月以来、対円で 8 月 29 日以来、対米ドルで 9 月 5 日以来の安値をつけました。RBNZ(NZ 中銀)による大幅な利下げ観測が浮上したことで、NZドルに対して下押し圧力が加わりました NZドルは引き続き上値が重い展開になる可能性があります。

24 日に豪州の 8 月 CPI(消費者物価指数)が発表されます。月次 CPI がカバーする品目数は四半期 CPI の 3 分の 2 程度であり、そのことに留意する必要があります。それでも 8 月 CPI が市場予想を下回る結果になれば、RBA による利下げ観測が市場で高まるかもしれません。

25 日には BOM(メキシコ中銀)の政策会合が開かれます。BOM は前回 8 月の会合で 0.25%の利下げを実施しており、現在の政策金利は 7.75%です。メキシコの 8 月 CPI(消費者物価指数)は前年比 3.57%となり、BOM のインフレ目標(3%)の許容レンジ(2~4%)内に 2 カ月連続で収まりました。

市場では、25 日の会合で 0.25%利下げすると予想されています。注目点は、BOM の声明で 11 月会合について何らかのヒントが提供されるかどうか(10 月は会合なし)。市場では 11 月会合でも 0.25%の利下げが行われるとの観測があります。声明によってその観測が市場で後退する場合、メキシコペソにとってプラス材料になりそうです。

日米など主要国の株価動向にも注目です。主要国の株価が上昇を続ければ、リスクオン(リスク選好)が強まるとともに、対円の追加ペアの下支え要因になる可能性があります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア①: 〈米ドル/円 予想レンジ:145.000 円~150.000 円〉

米 FRB の利下げ直後に米ドル/円は一時 145 円台半ばまで下落しましたが、すぐに反発しました。米ドル/円は引き続き 147.000-148.000 円を中心とした狭いレンジで推移しています。一方、米ドルの実効レートは米雇用の軟化を主因として、ジリジリと値を下げてきました(先週の FOMC 前後から反発していますが・・)。

日本の長期金利(10 年物国債利回り)は 19 日の日銀会合後に上昇。22 日午前には 17 年ぶりとなる 1.65%をつけました。米長期金利は先週上昇したものの、5 月をピークとした低下基調が続いています。そのため、日米長期金利差は世界的にインフレが上昇した 22 年春ごろの水準まで縮小しています。

それでも、米ドル/円が比較的堅調に推移しているのは、日本の政治の不確実性が円を押し下げているからとみられます。したがって、自民党総裁選が終わり、新たな政権と政策がある程度明らかになるまで

円は上昇しにくい状況が続くかもしれません。政治の不透明感が晴れば、金融政策の方向性の差（米FRB 利下げ、日銀利上げ）や長期金利差に市場の関心が向き、米ドル/円に下押し圧力が加わる可能性があります。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②: ＜ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ＞

予想レンジ: 0.93000S クローナ～0.96000S クローナ＞

ノルゲバンク（ノルウェー中銀）は、18 日の政策会合で利下げを実施し、政策金利を 4.00%としました。インフレの高止まりが長期化するとの予想から政策金利の据え置きも検討されたが、結局は利下げが適切との判断に至ったとのことでした。バーチェ総裁は「夏前に想定していたほど速いペースで利下げすることはなさそうだ」とし、現在の経済見通しを前提とすれば「今後 3 年間で毎年 1 回の利下げが適切だ」と述べました。

リクスバンク（スウェーデン中銀）は 23 日の会合で政策金利を 2.00%に据え置く可能性が高そうです。24 年 5 月から計 2.00%の利下げを実施しており、追加利下げの余地は小さそうです。ただ、23 日の声明で追加利下げに言及する可能性はあります。

ノルゲバンクとリクスバンクの政策金利差は今後縮小する方向にあり、それはノルウェークローネ/スウェーデンクローナ（以下、NOK/SEK）の下落要因です。ただ、ノルゲバンクの利下げ観測の後退やリクスバンクの利下げの可能性が当面は NOK/SEK のプラス材料になるかもしれません。＜西田＞

今週の注目通貨ペア③: ＜豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.11500NZドル～1.13000NZドル＞

NZ の 4-6 月期 GDP（国内総生産）が 9 月 18 日に発表されました。結果は前期比マイナス 0.9%と、市場予想や 8 月時点の RBNZ（NZ 中銀）の見通しであるマイナス 0.3%を下振れました。それを受けて市場では RBNZ は次回 10 月 8 日の政策会合で 0.50%の利下げを行うとの観測が浮上し、NZドル安が加速。豪ドル/NZドルは 18 日に一時 1.12738NZドルへ上昇して、22 年 10 月以来の高値をつけました。

OIS（翌日物金利スワップ）によると、19 日時点で市場が織り込む次回 RBNZ 会合での利下げ確率は、0.25%幅が 8 割弱、0.50%幅が 2 割強です。今週は NZ の主要な経済指標の発表はなく、RBNZ の利下げ観測が大きく変化する可能性は低いかもしれません。

一方で、市場では RBA（豪中銀）は次回 9 月 29-30 日の政策会合で政策金利を据え置いて、次々回 11 月 3-4 日の会合で 0.25%利下げするとの見方が有力です。

市場の RBA と RBNZ の金融政策見通しの差から考えれば、豪ドル/NZドルは引き続き底堅く推移する可能性があります。＜八代＞

今週の注目通貨ペア④: ＜米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.35000 カナダドル～1.39500 カナダドル＞

BOC（カナダ中銀）は 9 月 17 日の政策会合で 0.25%の利下げを行うことを決定、政策金利を 2.75%から 2.50%へと引き下げました。BOC が利下げしたのは、3 月以来 4 会合ぶりです。マックレム総裁は会

合後の会見で、カナダ経済に対するリスクが高まる場合には追加利下げを行う用意があると表明しました。BOC の次回会合は 10 月 29 日。OIS によると、19 日時点で市場が織り込む利下げ確率は約 5 割です。今週 26 日発表のカナダの 7 月 GDP の結果を受けて、利下げ観測がどのように変化するか注目です。

仮に BOC による追加利下げ観測が高まる一方で、8 月 PCE (個人消費支出)デフレーターなど米経済指標の結果を受けて FRB による追加利下げ観測が後退する場合、米ドル/カナダドルは堅調に推移しそうです。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起こっても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。



当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
